



全体計画

施設規模

当院と同等の機能を有する先進病院の事例を参考に、1床当たりの全体面積を83平方メートルから90平方メートルの範囲で設定します。

敷地面積	約30,000㎡
延床面積	18,000㎡程度
駐車場台数	550台程度
併設施設	在宅支援センター(訪問看護ステーション、居宅介護事業所)、院内保育所

病床数

病床数については、松本市立病院建設検討委員会から「現在の許可病床数215床の範囲で検討すること」として提言を受けていますが、地域医療構想等を踏まえる中で、新設する緩和ケア病棟を含め、210床以内に縮小する方向で見直します。

病棟種別	病床数
一般病棟	115床程度
回復期リハビリテーション病棟	35床程度
地域包括ケア病棟	45床程度
緩和ケア病棟	15床程度
計	210床以内

診療科目

標榜診療科については、現在以下のとおりですが、圏域での機能分化の進展や、外来診療の受診状況、民間クリニック等の周辺医療機関との連携等を踏まえながら、随時見直します。

診療科	内科、小児科、外科、整形外科、産科、婦人科、脳神経外科、泌尿器科、麻酔科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、放射線科、リハビリテーション科、循環器内科、消化器内科、人工透析内科、糖尿病内科、内分泌内科、呼吸器内科、乳腺外科、肛門外科、消化器外科、形成外科、歯科口腔外科、ペインクリニック、整形外科、救急科(救急総合診療科)
-----	---



部門別計画

全23部門の計画を策定していますが、ここでは一部の部門を掲載しています。

外来部門

- 地域性を考慮した総合的な外来診療を中心とし、さらに専門外来やセカンドピニンオン等、多様化する患者ニーズに合わせた外来診療も展開します。

病棟部門

- 一般病棟による急性期医療を中心としつつ、地域需要を考慮した回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を整備します。

救急部門

- 一次、二次救急患者に幅広く対応するとともに、三次救急患者については、高次機能医療機関との連携を更に充実強化することで対応します。

内視鏡センター

(新規)

- 専門スタッフを中心に安全且つ良質な内視鏡検査・治療を行う内視鏡センターを設置します。

健康管理センター

(新規)

- 松本市西部地域及び近隣市村の住民の健康増進に寄与するため、疾病の予防と早期発見に努め、満足と安心の予防医学を実践します。

患者サポートセンター

(新規)

- 地域医療連携室・医療福祉相談室、医療相談室、入退院に関する機能を集約し、多職種によるチームが個々の患者を支援できるように患者サポートセンターを設置します。

在宅支援センター

- 訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所で構成する在宅支援センターを市立病院内に併設し、利用者の期待に沿ったサービスを総合的かつ効率的に提供します。



医療機器整備計画

医療機器整備基本方針

- 医療提供にあつては、松本市西部地域唯一の病院としての役割や機能を実現するとともに、高齢化に伴う疾病構造や外部環境の変化にともなう医療ニーズに迅速に対応できるように、必要な医療機器を整備します。
- 新病院で担うべき診療機能の維持及び発展に必要な医療機器等については、すべてを新規購入とするのではなく、現病院の医療機器台数や整備年度、稼働実態を踏まえた整備計画とします。特に、現在使用している医療機器は可能な限り新病院に移設し、継続使用することを原則として、費用圧縮に努めます。

美しく生きる。
健康寿命延伸都市・松本



病院情報システム整備計画

病院情報システム整備基本方針

市立診療所・地域医療機関と診療情報等を共有化できるシステムの構築

- 1 新病院と市立診療所との電子カルテの共有化及び共通診療券の導入を検討します。
- 2 周辺地域の医療機関から検査予約を取得できるようにします。また、医療機関が新病院に紹介した患者の経過を、外部から参照することができる、「病診連携機能」を導入します。
- 3 外部から診療情報に安全にアクセスできるネットワークの構築を行います。



施設整備計画

配置計画

建物は、コンパクトな形状とし、メインアプローチ及びサブアプローチを設け、メインエントランスには、大型の庇・車寄せ・駐輪場などを設け、来院者の利便性に配慮します。

新病院南側の駐車場ゾーンは、将来建替スペースも兼ねて計画します。



階層構成

計画する建物は出来るだけシンプルかつコンパクトな断面構成とします。病棟は、病室利用の融通性に優れ、病棟間のスタッフ連携が取りやすい構成を基本とします。病棟以外の部門は、来院者の利便性や働きやすさを考慮した諸室配置とします。



事業費(素案)

類似規模の公立病院建設に係る実績額を参考に試算したものです。

事業費区分	内容	金額
建設工事	病院建設工事費、外構工事費、設計、工事管理等	6,680百万円
医療機器等	医療機器等購入費	2,500百万円
その他	用地費、移転費	1,120百万円
合計		10,300百万円



当面想定されるスケジュール

項目	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
基本設計	→				
実施設計		→			
建設工事			→		
開院準備					→ 開院予定



全体計画

市立病院は、新病院においても、波田総合病院時代から積み上げてきた急性期病院としての強みを生かすとともに、長野県地域医療構想で示された病院・病床機能の分化・集約化と連携強化を通じたより効果的・効率的な医療提供体制の構築を踏まえ、急性期医療を中心としつつ回復期医療、更には在宅医療支援にわたる幅広い領域(「出産から看取りまで」)を担います。将来にわたって、安定的、継続的に病院を運営していくため、常に改革意識をもって経営効率化に努めます。

病院の理念

地域の皆様から信頼され、全職員が患者さんと共に歩み、患者さん中心の、「満足と安心」・「権利と安全」に配慮した医療を実践します。

病院の基本方針

松本市立病院は、松本市が目指す「健康寿命延命都市・松本」の創造に向け、

- 1 松本医療圏の基幹病院の一つとして、西部地域を中心に急性期医療と回復期医療を提供します。
- 2 全人的包括的医療を実践するとともに、新しい命の誕生から人生の終末期まで幅広く地域の皆さんを支えます。
- 3 へき地医療支援や感染対策、災害救急医療、予防医療等の政策医療を担う自治体病院として保健や福祉と連携し地域の皆さんの健康を守ります。

新病院の目指す姿

- 1 地域医療を支える病院
 - 地域に求められる質の高い医療が提供できる施設
 - 機能的で使いやすい施設
 - 災害発生時の機能を強化した施設
 - 市立診療所や会田病院とのネットワーク化
- 2 保健・介護・福祉分野と連携した病院
 - 関係機関との連携を意識した施設
- 3 患者中心の「満足と安心」「権利と安全」に配慮した病院
 - 患者アメニティの確保と患者プライバシーの保護
 - ユニバーサルデザインの導入とバリアフリー化
 - 利便性への配慮
 - 相談機能の充実
- 4 医療従事者に選ばれる病院
 - 働きやすい魅力的な施設環境の整備
 - 教育研修機能の充実
- 5 将来にわたり安定的に持続可能な病院
 - 医療環境変化への対応とライフサイクルコストの低減
 - 環境との調和
 - ICT活用等による合理的な経営

